



復刊第102号
題字 吉岡 弥生

新年度を迎えるにあたって

副会長 山崎 倫子

国連婦人の十年も今年が最終年。女性の地位はめざましく上がり、働く分野も広がり、女性を取りまく通念も大いにかわってきました。

とくに近年は差別撤廃条約や、雇用均等法、家庭科の男女共修など、驚くほど多くの人々が自分の問題として考えるようになってきました。しかし依然として残る差別、不平等の問題、女性の足を引っさる雑多な問題、そして女性自身を持つ矛盾、まだまだ多くの問題が残されています。

私たち女医は婦人年の方針や諸活動に対してどちらかといえば冷静に、客観的に対応してきたように思います。これは、もともと男女差のあつてはならない、女だからという甘え

会は、医科進学人員を二〇%削減するよう厚生省に申し入れたというところで、その時、増えているのは女医だから——どうせ結婚して子供を生めば止めちゃうよ——どうせ一生の仕事じゃないだろう——まあ女医なんか問題にしないで、といったニュアンスの不可解な対応があつたと洩れ聞いています。また、女医志望者が増えて男性が入学門戸から締め出される傾向があるが、これは投資の無駄であるなど部外者の声も聞こえてきます。

先年来、国家試験に合格し、医師としての出発にあたり、入局を希望しても女医に対する条件がかなりきびしくなってきたようです。また入局、入部しても女医であるがゆえに研究費を獲得することが非常に困難であるとか、何ごとも男医優先であるとか、いろいろ物理的な問題もあるやに聞いています。

女性の地位向上と平等の社会参加、男女差別撤廃という世界的な傾向とはうらはらに、医学の分野では男女差別が頭をもたげようとするような気配を感じます。諸外国の例を見るまでもなく、医師増加のしわ寄せは女医に対してきびしくなってくると思われまふ。

昨年「男性医師から女性医師への一言」の中で、東大の小林登先生は、「男女の能力差をいう人がいますが、本質的には違わないんじゃないでしょうか……(略)職業人として、同時に妻として母としてどうバランス

目次



新年度を迎えるにあたって……………	山崎 倫子 (1)
学術研究助成研究経過報告	
癌胎児性蛋白質に対する抗体を利用した	
癌の局在診断に関する研究……………	石井 伸子 (2)
乳癌細胞におけるエストロゲン受容体の	
組織化学および免疫組織化学的研究……………	瀬木 和子 (3)
発育期における癌性脳障害の発現機構に	
関する研究……………	山磨 康子 (4)
国際女医学会第十九回国際会議における発表論文要旨	
産科異常における季節性について……………	野澤 良美 (4)
お腹の赤ちゃんは抗議することができない……………	佐藤千代子 (6)
支部近況	
千葉だより(千葉支部)……………	宮本 みち (7)
徳島だより(徳島支部)……………	上村 冢子 (8)
東京都支部連合会新年会開く……………	宮川美智子 (8)
添田百枝先生の叙勲祝賀会に出席して……………	尾中 妙子 (9)
カナダ帰りの踊る阿呆……………	小出つる子 (10)
昭和五十八年度会員学位取得者一覧表……………	
Circular Letter No. 77……………	山崎 倫子 (13)
渉外の三年……………	柳瀬 路子 (14)
忙中閑／第十九回国際女医学会……………	山本美代子 (15)
第二十四回定時総会のお知らせ……………	
常任理事会議事録……………	(14)
理事会議事録……………	(14)
会員動静……………	(16)
編集後記……………	(16)

をとって女性らしさを失わずに生きてゆくかということが女医さんに共通する問題だと思えます。われわれが女性の特性を正しく評価し、それが発揮できるよう配慮すべきだと思いますね。たとえば、二年なり一年なりの育児休暇がとれるような制度作りをするといったような形で。とにかく二十一世紀は女性の時代だと思っていますから、女の人にはまずまず張り切っていたきたい。医療の分野にもどんどん乗り込んで下さい。とくに小児科には……、また「職業婦人の在り方や問題についても積極的に発言するように頑張ってほしいと思います」と大変好意的

なそして激励的なことを言ってくれています。社会においても、家庭においても男性の理解と連帯・協力が切に望まれます。数年前から女医学会が行なっている研究学徒に対する学術研究助成事業は優れた女医育成に少なからず役立っていると思われませんが、ほかにも何かできることはないだろうかと考えさせられるこのごろです。いろいろな世代、専門 環境の違いのある女医の集まりなのですからもっと交流を深め、声を集めることによつて新しい発想が生まれてくるのではないのでしょうか。それにしても会員の増加が望まれます。とくに若い会員

の入会を期待したいと思えます。女医の力強い結束のもと、互いに向上に務めるとともに、あとに続く後輩のために、微力でも、たとえ精神的支持であっても中心になる女医学会、そんな会に育ってほしいと祈りたい気持ちです。学術面ではそれぞれの専門学会があり、それぞれに参加するとしても、日本医師会、都道府県医師会の中の女医はどうしても少数派です。女医学会の存在の意義がそこにあり、またあらしめなければならぬと思います。それは男医に對抗するためではなく、人間の健康と福利を荷う医師として、同じ立場で、職業に、学問に、将来計画に参

加してゆく責任があるからです。方針決定の場への女医の参画をぜひ皆で努力したいものです。
* イラク婦人連盟主催の世界の婦人集會に招待され、三月二日から七日まで、アラビアンナイトで知られるイラクの首都バグダットへ行ってきました。世界の各地から五百人余の婦人リーダーが集まり、婦人の十年に向かつての諸問題、引きつづき西暦二〇〇〇年に向かつての戦略など話しあいました。対イランのきびしい戦事態勢下、あらゆる分野における婦人の活躍は目ざましいものでした。フリーピンからきていたドクター・

ゴメス(元国際女医会長)ともMWIAについて話しあう機会がありました。
* さて、来る五月二十六日、ご案内の通り京王プラザホテルにおいて第三十回定時総会が開かれます。今回は役員改選期に当たり選挙が行なわれる重要な総会でございます。ぜひふるってご出席下さいますよう、お願い申し上げます。またこの機会に筑波の科学博のご見物等いかがでしょうか。一年ぶりに皆様におめにかかるのを楽しみにしております。

学術研究助成研究経過報告

癌胎児性蛋白質に対する抗体を利用した

癌の局在診断に関する研究

長崎大学保健管理センター

講師 石井 伸子

放射標識抗体による、癌の局在診断(Radio-immunomaging)は、癌の新しい質的診断法としてのみならず、抗体単独または抗体と抗癌剤、toxin などの複合体療法にもつながる、興味ある分野である。代表的な癌胎児性蛋白質である α -fetoprotein (AFP) 及び carcinoem-

bryonic antigen (CEA) に対するポリクローナル抗体 (PAb) とモノクローナル抗体 (MAb) を用いて検討した Radio-immunomaging の成績を報告する。

方法

PAb はウマ抗血清より精製 MAb

はハイブリドーマ法により作成し、¹²⁵I または ¹³¹I で標識した。動物実験では担癌動物に ¹²⁵I 標識抗体(またはコントロールとして正常 IgG) を投与し、経時的に全身シンチグラフィを行なうとともに、血液および各組織の ¹²⁵I カウントを測定し、組織/血液放射活性比として表わした。臨床検討では、皮内テストの後 ¹³¹I 標識抗体を 1-1.5 mCi 静注し、二四、四八時間目に Subtraction 法によるシンチグラフィを行なった。また、抗体の腫瘍集積機序を検討するために AFP を結合したセルロースディスクを作成し、*in vitro* で標識抗体(MAb)との結合を種々の抗原、抗体濃度下で検討するとともに、ディスクをラット腹腔内

に移植し *in vivo* の実験を行なった。
成績
1) 抗 AFP 抗体による成績
AFP 産生肝癌を皮下移植したラットの実験モデルでは、腫瘍はシンチグラム上明瞭な hot area としてとらえられ、腫瘍/血液放射活性比は正常 IgG に比べ約四倍の高値を示した。MAb によるヒト肝癌移植モデルマウスのシンチグラフィでも、腫瘍に局限した明瞭な陽性像が得られた。臨床的には二六例の肝癌兼肝硬変症例に ¹³¹I 標識抗 AFP 抗体によるシンチグラフィを行ない、一三例(五〇%)に肝内腫瘍の陽性描出を認めた。PAb と MAb 使用群間で陽性率に差はなかった。血中 AFP

濃度と陽性率の間に関連はなかったが、腫瘍/血液 AFP 比の高い例に陽性像は得やすい傾向を認めた。これは、AFP 結合ディスクを用いた *in vitro, in vivo* の実験でも、標識抗体は抗原過の条件下でディスク上の AFP と濃度勾配依存性に結合する結果を得たことと考え合わせ興味深い。
2) 抗 CEA 抗体による成績
抗 CEA 抗体 (PAb) による CEA 産生腫瘍の imaging では七例中四例に陽性所見が得られた。うち一例では Lymphoscintigraphy により腋窩の胃癌転移リンパ節を描出し得た。MAb を用いたヒト癌移植モデルマウスの検討では腫瘍に局限した陽性像を得るとともに、腫瘍血液放

射活性比は三・三と高値を示した。

結論

以上の成績から、これらの抗体が特異的に腫瘍に集積すること、その機序の一部は解明されたが、臨床成績には今一步の感が否めない。今

乳癌細胞におけるエストロゲン受容体の

組織化学および免疫組織化学的研究

日本大学病理 瀬木 和子

目的

ヒト乳癌はホルモン依存性——とくにエストロゲン依存性を有するので古くから進行および再発乳癌の治療には卵巣剔除や抗エストロゲン剤の投与等の内分泌治療が行なわれている。エストロゲンは受容体(ER)とよばれる特異的細胞質蛋白と選択的結合をして作用が発揮されること

が知られている。ERを持たない乳癌にはホルモン治療が無効であるので、治療方針決定上 ERの有無を知ることが重要である。実際には生化学的測定法が用いられているが、測定値とホルモン治療の有効性は必ずしも一致せず、生化学的に ER陽性例でも四〇%前後はホルモン治療が無効であるといわれている。形態学的に、

後抗体の選択、標識核種や Tomos-cintigraphy など方法の検討を加え、診断精度の向上をはかっていきたい。

* *

ER が癌細胞そのものに(間質でなく)存在することを確認する必要があると考えられる。今回は摘出腫瘍細胞における ER または結合部位の証明および生化学的測定値との関係を検討することを試みた。

材料

手術時迅速診断用に提出されたヒト乳癌十四例および転移巢(脳下垂体)一例。

方法

(1) Lee's conjugate(fluorescein-ated estradiol) を用いて凍結切片上で、蛍光色素で標識されたエストロゲンと ER を反応させ結合部位を蛍光顕微鏡で証明。

(2) ペルオキシダーゼ標識免疫組織

化学法 (Peroxidase-anti-peroxidase complex 法 = PAP 法) で凍結切片とホルマリン固定パラフィン包埋切片のおおのについて Immunok-Histostet (anti-estradiol) を用いてエストロゲンを染色。
(3) 上記と生化学測定結果を比較。

結果

別表に示すごとくであり、生化学測定結果では四一・七%が陽性であるが、Lee の蛍光法では十五例中八例が陽性。生化学的結果と非常によく一致した。生化学陽性例は蛍光ではすべて陽性を示し、生化学陰性で蛍光法陽性は一例のみであった。PAP法では凍結切片では高い陽性率を示したが、パラフィン切片では陽性率は四〇%であった。

考察

(1) Lee's conjugate の使用にあたっては陰性対照として剖検例の肺、骨格筋陽性対照として生検例の子宮筋層と内膜を用いた。blocking の試薬が入手できず、タモキシフェン(非ステロイド抗エストロゲン剤)およびプレマリンを種々の条件で用いて blocking を試みたが、不完全ブロックが得られたのみで、特異性についていささかの疑問があり、検討を要する。また、判定の基準を蛍光の強度と細胞数で定めるので客観性を欠く点が問題である。

(2) PAP 法では anti-estradiol antiserum による前処置を行なわな

結果

例	年齢	生化学的測定値 fmol/mg p.	組織化学的所見			備考
			蛍光法 (Lee)	PAP 法		
				凍結切片	パラフィン切片	
1	57	- 3.0↓	-	±	±	
2	48	- 3.0↓	-	±	-	
3	57	+ 7.8	±	±	+	核内+
4	49	+ 20.9	±	±	+	核内+
5	54	+ 11.8	+	±	±	
6	63	- 3.0↓	-	-	-	間質+
7	41		+	±	±	
8	45	- 3.0↓	+	±	±	
9	38	- 3.0↓	-	-	-	核内+
10	45		-	±	-	
11	44	+ 6.5	+	±	+	
12	61	- 3.0↓	-	±	+	
13	35	+ 11.4	±	±	+	
14	74	- 3.0↓	-	±	±	数少ない
15	51		±	+	±	
陽性率		5/12 41.7%	8/15 53%	9/13 70%	6/15 40%	

考えられる。

(4) 今回の結果からは、生化学的に陽性でありながら、ホルモン治療無効例の存在する理由は不明のままであり、解決されていない。将来症例を重ねて検討する予定である。

(5) 蛍光法に関しては、凍結切片診断時に比較的単純な手技で短時間で十一が判定できることから実際の価値があると考えられる。

* *

(3) 蛍光法でも、PAP法でも核内にエストロゲン陽性例があり、これは代謝上当然であると思われるが、間質にも陽性に染色される例があり、この点がホルモン治療の無効例とい

かなる関係にあるかが今後の問題と

発育期における癲癇性脳障害の 発現機構に関する研究

岡山大学小児科
山磨 康子

小児てんかんの予後は一般に良好で、昭和四十三〜四十六年の四年間に岡山大学小児科を初診した十五歳未満の小児てんかん一、二九五例のうち十〜十五年後の予後を把握しえた七三〇例中五七八例(七九・一%)は追跡時すでに五年以上発作が抑制されていた。初診時のてんかん類型別には原発全汎てんかんの予後がとくによく、欠神発作、ミオクロニー発作では五年寛解率は一〇〇%、強直間代発作で九七・五%に上っていた。一方続発全汎てんかんの予後はきわめて不良で、五年寛解率はWest症候群で四八・〇%、Lennox 症候群では三七・五%にすぎず、これらが現在小児てんかん診療および研究の大きな標的である。

乳児期中〜後期に初発するWestおよび幼児期早期に好発するLennox症候群は、新生児〜乳児期早期に発症する乳児早期てんかん性脳症(EIEE)を加えて年齢依存性てんかん性脳症と総称されるが、これらは頻回の小型発作が難治であるとともに知能予後も不良である。

八例、およびLennox 症候群二二六例の検討ではEIEEの全例、West症候群の一五三例(七三・六%)、Lennox 症候群の一七〇例(六四・〇%)は精神遅滞、脳性小児麻痺、結節性硬化症、脳炎後遺症等の器質性脳障害を基盤に発症していた。CT上もEIEEでは六例中六例(一〇〇・〇%)、West症候群七一例中五四例(七七・一%)、Lennox 症候群では一五五例中一〇七例(六九・〇%)

の高率に脳室拡大、皮質萎縮、孔脳症その他の脳奇形、石灰化像等を認め、幼弱発症例により高率かつ著しい傾向がみられた。EIEEの予後はとくに不良で一〇例中早期死亡五例で、他の五例は重症心身障害児となっており、発作は一例で抑制されているにすぎなかった。三年以上追跡しえたWest 症候群一六二例では、一〇七五以上ではほぼ知能障害のないものが一七例(一〇・五%)、知能障害を伴うものが一四五例(八九・五%)であった。半年以上発作の消失しているものは八九例(五四・九%)であったが、発作存続例に知能正常例がみられな

かった点が注目された。Lennox 症候群二九三例では一〇七五以上のものが二九例(九・九%)、七五以下のものが二六四例(九〇・一%)であり、発作の消失は一七例(三九・九%)であった。一〇七五以上の症例中Lennox 症候群として小型発作の存続しているものは一例にすぎなかった。これらの点より年齢依存性てんかん性脳症は高度の器質性脳障害を基盤に発症するものが多いと同時に、小型発作の存続により知能荒廃を惹

起あるいは促進しうるものが推測された。そこで発症までの発達の正常であったWest 症候群の特発例五一例、Lennox 症候群の特発例八六例につき三年以上の追跡を行なった。その結果小型発作の存続期間と知能荒廃の程度の間には高い相関がみられ、ことにLennox 症候群よりも発症年齢の早いWest 症候群で顕著であった。また特発例におけるCT上の脳萎縮像の検出率も発作存続期間とともに高まる傾向がみられた。すなわ

国際女医学会第十九回国際会議における発表論文要旨

産科異常における季節性について

はじめに

私どもは「出生の季節」を中心として胎児期の環境要因の影響等について追求して来ましたが、すでに種々の出生異常、すなわち流産、死産、早期産、過期産、先天異常等の発生の季節性について報告して来ましたが、分娩時の産科的合併症の季節性についてさらに調査を続行したので、いくつかの新しい報告をしたいと思

います。

起あるいは促進しうるものが推測された。そこで発症までの発達の正常であったWest 症候群の特発例五一例、Lennox 症候群の特発例八六例につき三年以上の追跡を行なった。その結果小型発作の存続期間と知能荒廃の程度の間には高い相関がみられ、ことにLennox 症候群よりも発症年齢の早いWest 症候群で顕著であった。また特発例におけるCT上の脳萎縮像の検出率も発作存続期間とともに高まる傾向がみられた。すなわち年齢依存性てんかん性脳症においては単なる知能発達の停止にとどまらず、発作の存続により進行性知能荒廃を来すことが明らかになり、発達段階にある未熟な脳に対する癲癇性脳障害の著しいこと、およびこれは器質的な脳萎縮をも惹起する可能性の-highいことが示唆された。したがって年齢依存性てんかん性脳症においては早期発見、早期に適切な治療を行なうことが発作および知能の予後の上で重要と考えられる。

都下支部 野澤 良美

調査対象および方法

帝京大学附属病院産科における一

結果および考察

(1) 分娩時合併症と性比

合併症の発生につき男児および女児の分娩について比較しました(表2、図1)。男児一、六七六例女児一、五四四例合計三、二二〇例の単胎分娩について検討し性別不明および双胎分娩は除外しました。児の性

Table 1.

SEX OF BABY	NUMBER OF BABIES		
	SINGLETON	TWIN	TOTAL
MALE	1,676	21	1,697
FEMALE	1,544	14	1,558
UNKNOWN	5	11	16
TOTAL	3,225	46	3,271

g以上の巨大児、回旋異常、羊水混

比は男/女で示し、全単胎児の性比は一・一〇でした。体重四、〇〇〇

Table 2. Occurrences of complications in male and female babies.

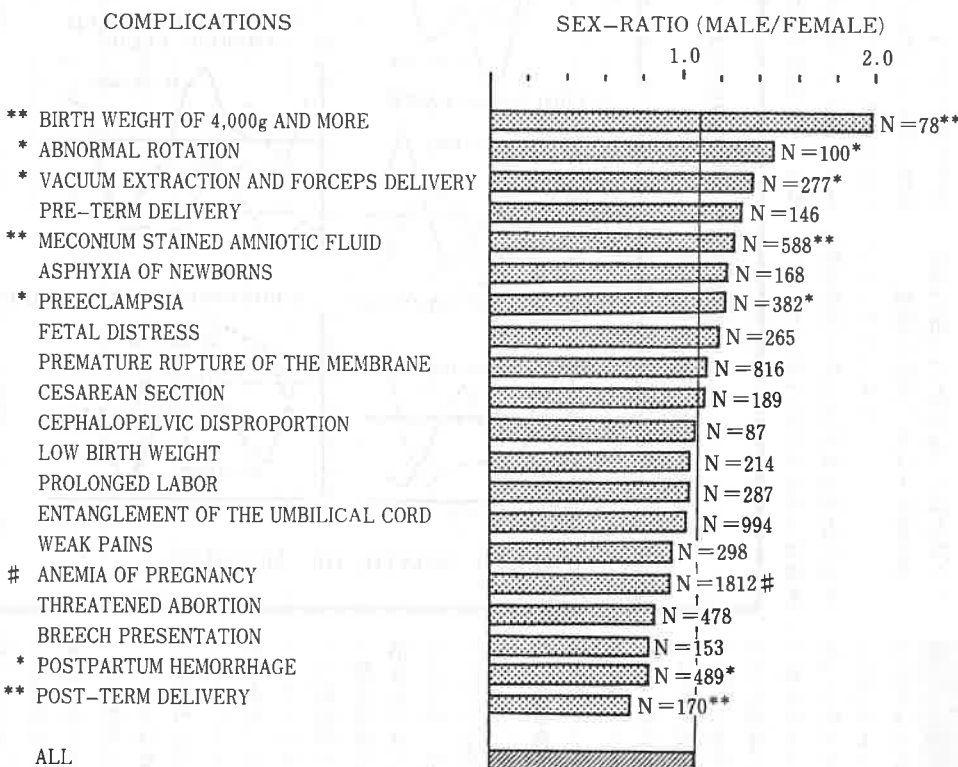
	Sex of baby					
	Male		Female		Sex ratio	
	n	%	n	%	male/female	
A. Complications in gestation						
preeclampsia	218	13.0	164	10.6	1.23*	
threatened abortion	233	13.9	245	15.9	0.87	
anemia of pregnancy	917	54.7	895	58.0	0.94 #	
B. Baby's size and gestational period						
low birth weight	114	6.8	100	6.5	1.05	
birth weight of 4,000g and more	53	3.2	25	1.6	2.00**	
pre-term delivery	86	5.1	60	3.9	1.31	
post-term delivery	76	4.5	94	6.1	0.74*	
C. Complications at labor						
weak pains	152	9.1	146	9.5	0.96	
prolonged labor	152	9.1	135	8.7	1.05	
premature rupture of the membrane	434	25.9	382	24.7	1.14	
meconium stained amniotic fluid	341	20.3	247	16.0	1.27**	
cephalopelvic disproportion	47	2.8	40	2.6	1.08	
breech presentation	72	4.3	81	5.2	0.83	
abnormal rotation	62	3.7	38	2.5	1.48*	
postpartum hemorrhage	231	13.8	258	16.7	0.83*	
entanglement of the umbilical cord	524	31.3	470	30.4	1.03	
fetal distress	150	8.9	115	7.4	1.20	
asphyxia of newborns	93	5.5	75	4.9	1.24	
D. Obstetric operations						
vacuum extraction and forceps delivery	160	9.5	117	7.6	1.37*	
cesarean section	104	6.2	85	5.5	1.13	
All	1676		1544		1.09	

** : The difference was significant by χ^2 -test (df=1, p<0.01)

* : p<0.05

: p<0.1

Figure 1.



(第十九回国際女
医学会において英文で
発表した論文の抄録の
一部です)

(3) これ等種々の
合併症において母
の出生季節の変動
性が男児および女
児両者の間で確認
されました。

(2) 夏生まれの母
は微弱陣痛、分娩
遷延、前期破水、
羊水混濁、出血多
量等の種々の合併
症において低い頻
度を示しました。

濁、妊娠中毒症、吸引および鉗子分娩を伴った分娩では男児において有意に多く、過期産、貧血、出血多量等では女児に多発し、います。全体的に合併症は男児分娩の際に多く発生しており、男児の胎盤が異常因子をより敏感に受けやすいという現象と関係があるとも考えられ、男児の方が低

酸素状態に陥り易い事をも意味しているように興味深いと思われ、(2) 児と母の出生月と合併症の季節分布 (図2) 微弱陣痛、分娩遷延、前期破水、羊水混濁、出血多量等の合併症の発生を比較してみますと左側の図、すなわち児出生月(分娩時)分布では

互いに関連性はあるもののむしろ相違を示していますが、右側の母の出生月の分布図では明らかに夏生まれの母において、分娩異常の発生の下がみられます。この現象は母自身の子が母体に何らかの影響を与え、それが妊娠、分娩に際し特別の身体的

特性を形成し、児をより安全に維持させているとも考えられます。(3) 男児および女児の合併症の季節性 男児および女児の妊娠の合併症の季節性を母の出生月によりみますと(図3)、羊水混濁、出血多量における平均値では男児と女児の分娩に

際し大きな差は認められませんが(D、E)、一般に男児および女児分娩に際し、両者とも母の出生月による季節性では似た傾向が認められました。まとめ (1) 男児妊娠において合併症すなわち四、〇〇〇g以上の巨大児、回旋異常、羊水混濁、妊娠中毒症、吸引および鉗子分娩等は多発し、反対に女児においては過期産、出血多量が多発しています。(2) 夏生まれの母は微弱陣痛、分娩遷延、前期破水、羊水混濁、出血多量等の種々の合併症において低い頻度を示しました。

することができない”

愛知支部

佐藤千代子

昨今男性の喫煙率は徐々に低下して来ているのに、女性の喫煙率は逆に上昇し、かつ喫煙開始年齢の低下が著しくなっています。専門の先生方が早くから喫煙の害を警告していただけるのに、社会の反応はいま一つでした。しかし最近、学校教育の現場から今までのように外側から禁止を強制するより、「喫煙生徒を救おう」のスローガンで内側から教師も生徒も一緒になってタバコに迫ろうと、全校ぐるみの戦いを始めて大きな成果を挙げ、その輪をひろげていっている報告があり、厚生省もようやく

今年から母子手帳の副読本に、妊婦に対する影響を明記し、禁煙をすすめる姿勢を示しました。喫煙の害を一番熟知している私ども女医も教育関係者とタイアップして中高生を含む若い女性に対する禁煙指導を積極的に推進しなければならぬ責任があるのではないのでしょうか。またま新聞に掲載した「女性と喫煙」の私の記事をぜひテレビで……と中高生対象の番組で話す機会がありました。先生方にはご存知の内容ばかりですが禁煙指導の何かの参考までにその対談の中から抜粋して記します。

——ところで先生が女性の禁煙運動を始められたのは何か理由がありましたか——
「喫煙が胎児に及ぼす影響を若い女性に知ってもらうことは女医としての責任であると考えたからです。最近の調査で、肺癌について七〇%くらいの人が関係があることを知っています。もともと若い年齢からタバコを始めると、肺癌になる危険が著しく高くなることはまだ知らない人が多いようです。心臓疾患たとえば心筋梗塞との関係は一八%が知っている。しかし胎児への影響を知ら

ない人が九〇%、肌の老化についても九〇%の人が知らない。といった報告があります。
——胎児にまで危険が及ぶとなると、ことは重大ですがそのへんを詳しく説明して下さい——
「タバコを吸うと、なぜ胎児に影響するか、という点から申しますと、ニコチンの作用で胎盤の血管が収縮して血流障害をおこすこと、また、一酸化炭素がヘモグロビンの一部と結合してカルボキシヘモグロビンとなるため、胎児に対する酸素供給量が少なくなるからであると考えられます。そしてまた、喫煙妊婦では喫煙による食欲低下のために栄養摂取量が少なくなり、胎児の発育が阻害されることも原因といわれます。実験的に兎にタバコを強制的に吸わせて耳の毛細血管の血液の流れを観察すると、毛細血管の血液の流れが止まったり逆流したりすることがはつきり見られます。近頃は超音波診断装置でお腹の赤ちゃんの動きを見ることが出来ます。妊婦がタバコを吸うと胎児はたちまち苦しそうな動きを示すことが見られるのです。」
——実際にそんなに影響を受けて赤ちゃんはどうなるのですか——
「早産児や未熟児が生まれることが多く、一日二十本以上タバコを吸う母親から生まれる子供の三人に一人は未熟児であり、早産、死産も非喫煙者の二倍という統計が出ています。またお産の時に胎盤の早期剝離や前置胎盤といった状態になり易く

Figure 2. COMPLICATIONS BY MONTH OF DELIVERY AND BIRTH MONTH OF MOTHERS

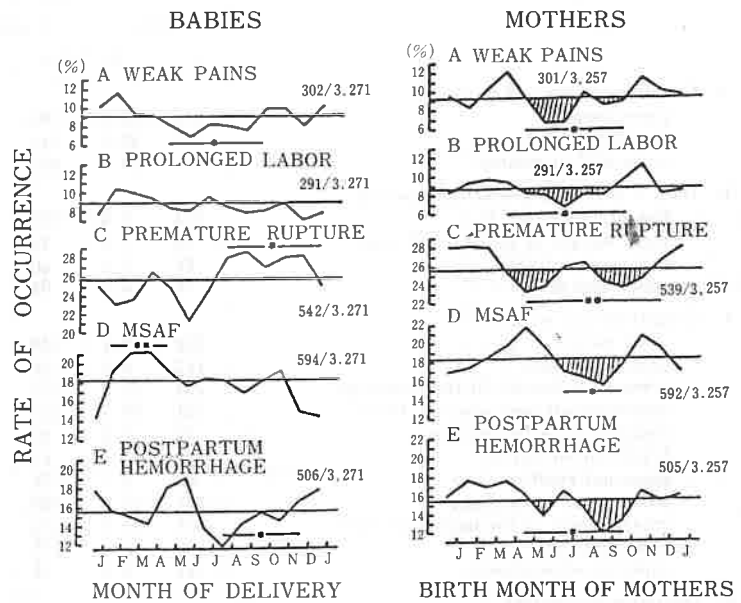
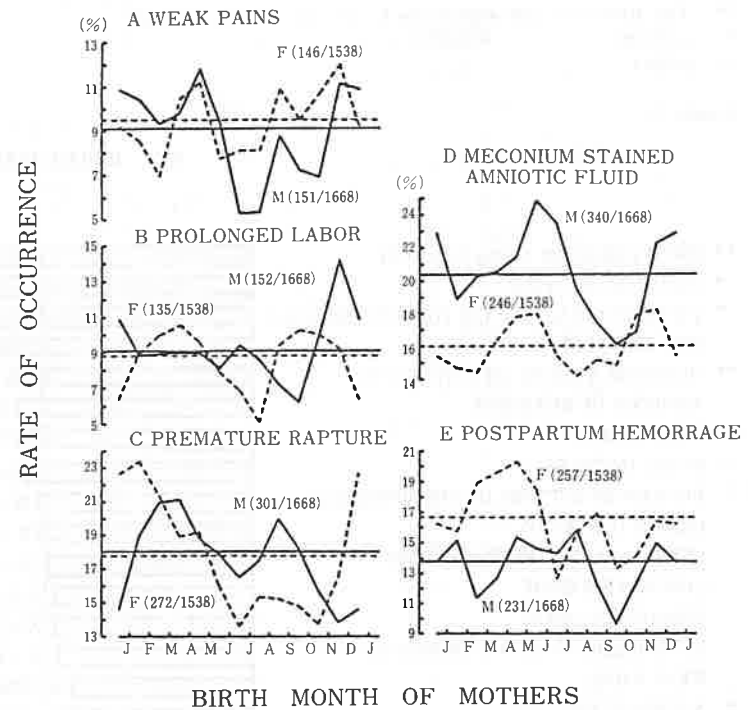


Figure 3. COMPLICATIONS IN DELIVERIES OF MALE AND FEMALE BABIES BY BIRTH MONTH OF MOTHERS (only singleton)



たり逆流したりすることがはつきり見られます。近頃は超音波診断装置でお腹の赤ちゃんの動きを見ることが出来ます。妊婦がタバコを吸うと胎児はたちまち苦しそうな動きを示すことが見られるのです。」

——実際にそんなに影響を受けて赤ちゃんはどうなるのですか——
「早産児や未熟児が生まれることが多く、一日二十本以上タバコを吸う母親から生まれる子供の三人に一人は未熟児であり、早産、死産も非喫煙者の二倍という統計が出ています。またお産の時に胎盤の早期剝離や前置胎盤といった状態になり易く



若い女性の禁煙指導に “お腹の赤ちゃんは抗議 積極的に取り組もう、女医だからこそ——

これは死産につながります。その他いろいろ報告されていることを少し紹介しようと、まず先天異常児（奇型児）出産の危険率が高くなります。またイギリスの調査ですが、妊娠中から一日十本以上タバコを吸っている母親の子供は非喫煙の母親の子に比べ、十一歳になっても読解力や計算力が劣るといふ報告があります。これは教育ママにとって一大事ではないでしょうか。次に生まれてからの問題ですが、タバコを吸う父親の家ではその子が小

児喘息にかかる率が二倍以上になり、母親が喫煙者の場合は十倍以上という統計が出されております。こういったタバコの害の研究は世界中で行なわれ、次々と新しい報告がなされております。

若い女性の中には肥るといやだからタバコを止めないという人がいますが、美容にも影響するのでしようか——

「ニコチンによる皮膚血管収縮作用のため喫煙中は皮膚の温度が二度から四度下るため皮膚を早く老化させ、次第につやのない黒ずんだ肌にしてしまうのです。またビタミンCはメラニン還元作用があつて日焼けシミを防ぎ、皮膚の血行をよくして美しい肌をつくるのですが、そのビタミンCを惜しみなく奪うのがタバコです。タバコ一本でレモン一個分の二十五gのビタミンCが失われるのです。」

皆さんおわかりになりましたでしょうか。誘われるままちよつとした好奇心からタバコを吸い始めた人が、その害に気づいた時、もうやめられなくなつています。あなたの命だけでなくあなたの可愛い子供にまでとり返しつかない影響を与えるおそれのあるタバコについてよく考えて下さい——

支部近況

千葉だより

千葉支部 宮本 みち

昨年三月二十日、支部総会が、千葉市ロイヤルプラザホテルで、あいにくの大雪にもかかわらず、顧問、花岡、犬飼両先生以下十四名で開催されました。

一、支部最年長の赤松せつ先生（大正十一年卒）、小松フク先生（大正十年卒）に、長年のご功勞に感謝し、ロイヤルコペンハーゲン・モーニング碗皿を、ご贈呈申し上げます。

二、犬飼美代先生は、喜寿を迎えられました。そのご人徳に、会員一同お慕いし、教えられること多く、飯田深雪先生の蘭のアートフラワ―をご贈呈し、ますますのご長命をお祝い申し上げます。

三、支部発足以来、二十五年になり記念会誌発行を、総会で了承されましたので、編集委員会を発足しました。支部会則決定、地区別全員名簿作成など、軌道にや々と乗った状態となり、総会通知に対する会員の返事などから、無関心

ということもわかれず、もう一步という感じをうけております。

一昨年四月、大福帳的運営から脱却すべく、愛知、高知、神奈川、中野区、世田谷区、葛飾区の各支部長先生へ、会則、運営につき、ご照会申し上げましたところ、さっそくに、身にあまりご丁寧な返書をいただきました。

高知の小出つる子先生からは、速達より早くいらいに、ご意見をいただき、その熱意に感激しました。「そちらにできたら、みせて下さい」と言われながら、いまだに果たせずしております。

名古屋の森川みどり先生は、「運営面で、執行部が斬新な感覚をもつて、会員のために、働かせていただくことに尽きる。会則は心です。何かありましたら、夜間にでも、お電話をどうぞ」と書かれてありました。乾いた心に、慈雨のごとき優しさでありました。

中野区の倉島攝子先生の春光会内



犬飼美代子先生(左)と花岡常子先生(右)

規は、簡單明瞭、しかも有機的に運営され、生かされていることがわかりました。

神奈川の稲生襄先生も、部厚な支部だより七号までも発刊し、親睦と有意な活動をしておられ、参考となりました。

葛飾区の青井礼子先生は、本部の定款に沿い、年二回の親睦会を開いておられる由、全国各支部長先生のパワーに圧倒され、私もこころ一番、張り切らねばならぬと、決めました。

その折も折、愛知県支部から「創立二十周年記念誌」が郵送され、一気に読み進みました時の驚き。編集後記までとんとん読み、ためいきが出ました。

「夫々が、診療という大切な仕事を持つている中で、共同して会が発展向上するための活動を図ることは、並大抵ではありません。

二十年をふりかえり、活動記録をまとめてみて、今更ながら、森川支部長のもと、会員が一致団結して、よくやってきたと、感無量です。今後医師の未来像は、予断を許さない

徳島だより

きびしさであると思われま。あらためて、今日が、起点であると考えることが、進歩につながるのではないでしようか」と結んでありました。この団結力!!

森川先生は、なおかつ、「二十年は飛躍へのワンステップであり、医師としては、一層厳しく、会員相携えて、家庭に、社会に花を添えまし

よう」と、巻頭言に申されておりました。

私ども千葉県も、連続と続いた二十五年度の貴重な歴史を持っておりま

す。再び昔を省みて、新生して行くこと、心新たにした次第でございます。女医学会は、不滅です!! あら、ちよつと、長島さんみたいです。では、近況お知らせまで。

徳島支部 上村 栄子

立秋というより、酷暑という言葉がぴったりの昨年八月十二日、しかも阿波踊り初日の日曜日とあつて人もピークとなり、四国四県より多数の先生方のご参加を得て、第十五回四国女医学会総会を新築間もない徳島東急インで開くことができました。何よりも天候に恵まれたことが大変嬉しく、一同の日頃の精進の良さを感ぜさせられました。

年よりお約束いたしておりました一行六十人の「四国女医学会連」の阿波踊りが始まりました。日頃の白衣を踊り浴衣に着替え、有名連の「ささき連」にリードされながら本場阿波での踊りに先生方は大変ご満悦の様子。

今回ほとくに国際女医学会にご出席して帰国されたばかりの小出つる子高知県支部長先生よりその模様や、また第三回カナダ福祉医療施設調査団に参加されました香川県の松浦俊子先生より、有意義な実のあるお話を伺いました。

「来年からただでよいから雇われて来たい」とか、「上手に上品に踊ったきれいな一行であつた」とか帰つてホテルのロビーでひとしきり興奮さめやらぬ想いのめいめいの歓声があがり、お年のことなど忘れた一幕!!。主催者として大変満足でうれしい思いでした。

総会・夕食会終了後、いよいよ昨

「日本女医学会誌」に掲載するようにとの蓮井・松浦両先生の言。

踊り興じた一行は水のひくごとく自動車を駆つてお帰りになられる先生方、またホテルにて「よしこの」のメロディーの中に一晚過ぎる先生方と、私たちはそれぞれのお世話で一杯でしたが、徳島会員一同友愛のもと、なごやかなお世話の完了に

東京都支部連合会新年会開く

満足感にひたりつつ帰途につきました。

(注) 四国には十五年前より四国女医学会を結成し各県もち廻りて毎年一回総会を開催し、親睦と医療の前進に心がけている。

千代田支部 宮川美智子

昭和六十年二月十六日(土) 午後四時、ホテル・センチュリーハイアット、地下一階「クリスタルルーム」において、新年会が百四十二名の参加の下に開催されました。筑波科学万博開催を目前に控えて、応急手当についての研修会も同時に開かれました。

射病、熱射病、等個々の場合について、簡にして要を得た説明があり、感銘致しました。

〈研修会〉
会長挨拶 今野信子先生
一、講師 東京女子医大教授(内科) 黒川キミエ先生

野村淑子先生
「救急診療(外科)についての参考に」
頭部—損傷、骨折、損傷出血、炎症疾患、てんかん等について。

「症状からみた救急プライマリケア」
全身状態の把握、患者ないし家族からの事情聴取が大切であること。

頭蓋骨の痺裂、骨折のX線写真を数例見せていただきました。頭部受傷の場合、一次診療所であっても、応急止血をして転送、必ず精査を受けるよう指示することを、強調されました。

その他、発熱、頭痛、めまい、失神、悪心、上腹部痛、下腹部痛、下痢、意識障害、急性心筋障害、日

頭部、胸部、腹部、上肢、脊椎、下肢における損傷、脱臼、骨折、出血等の要点について、平易な言葉で分かりやすく話され、皆熱心に聞き入りました。

途中、外科の器具のことが出ましたので、明石み代先生から、万博救急診療所の設備について説明がありました。

はじめ、研修会の時に話される予定でしたが、時間超過のためここで「科学万博出務に関する注意事項」を庶務明石み代先生が急ぎ読みあげられました。

三神美和 日本女医学会会長祝辞
昨年筑波科学万博医療協力を引受けてから今日までの経過について、話されました。

佐藤イクヨ先生が、乾杯の音頭をとられ、ついで万博当局の村岡課長の挨拶があり、協力に対するお礼を述べられました。茨城支部長大貫京子先生、千葉支部長宮本みち先生もわざわざご出席下さいまして、緊急出務代行を申し出られるなど、ご好意あふれる挨拶をいただきました。大阪万博の思い出話で、久保田くらし生より、欠員が出て困ったこと等々、裏話を聞かせていただきました。

その後、万博当局村越課長代理から、まだ万博のほうも完全にできていませんがよろしくとの挨拶がありました。

柳瀬路子先生の閉会の辞(明石先生代読)で会は閉じられました。



フルコースのフランス料理をいただきながらのなごやかな会でした。

＊

三神先生のお話にありましたように、かつての大阪万博の実績をかわれ、筑波科学万博の医療協力を請われて、昨年六月、東京都支部連合会で引受けることが決まり、爾来、會長今野先生を中心に、三神副會長、柳瀬副會長、をはじめ、支部長、副支部長が、毎月第二火曜日の夜、会合を持ち、各区の出務月割当、参加申し込み方法、申し込み者および緊急出務代行者の月日割当等、次々取決められて行きました。この間、庶務明石先生は、大変な活躍で、実施方法についても、実に綿密な計画と、なみなみならぬ努力を払って下さいまして、おかげで、着々方向づ

けられてまいりました。会計岡田、中山先生も、会の発足間もなく、資金も思うにまかせず苦労されました。会社等から科学万博基金のための寄附を募ったり、事業部守屋先生の奮闘で、前進座の切符五百枚完売により基金の一部を捻出するなど、ようやく軌道に乗って来しました。會長今野先生は、いつもしつかりしておられて、心強い限りでございました。各支部長も会員への連絡・勧誘・とりまとめと真剣に取り組んでまいりました。

生を受賞を心より喜ばれた、ほのほのとした暖かいお祝辞でした。二番目は、添田先生が防衛庁を退官なされた後、第二の人生の出発点を講師として迎えて下さいました千葉大学の生物活性研究所所長の新井正教授でした。新井先生は、添田先生が自分で発見なされた新物質にわが子を見守るような愛情について語られ、添田先生の研究に対する姿が浮きぼりにされ、感銘の深いお祝辞でした。

今までの積み重ねが、この三月、科学万博開催の日から、本番となつて発揮されるわけでありませう。大阪万博に劣らぬ成果を挙げる事ができますよう、各自心して望みたいと思ひます。

三番目は防衛庁第二研究所所長三富守先生で、添田先生の昭和十一年より現在に到るまで、約五十年間におよぶ研究活動について、語られ、とくに防衛庁における約二十年間の輝かしい功績が今回の受賞の対象になったことをのべられました。

長の音頭で乾杯があり、楽しい宴となりました。本会は医学界の他、先生のおふるさとの方々、出身校の県立白河高等女学校の同窓会の方々、また親しいご友人、ご親族の方々もみられ、家庭的な会となりました。終りに県立白河高等女学校の校歌並びに東邦の女子医専時代の校歌をそれぞれ同窓生が先生を囲んで歌い、盛会の中に終わりました。なお最後に日本女医會會長三神先生のお祝辞をここに披露させていただきます。

祝 詞

會 長 三神 美和

添田百枝先生の叙勲祝賀会に出席して

台東支部 尾中 妙子

昭和六十年三月三日、桃の節句のよき日、東京の宮城前のパレスホテルにおいて、添田百枝先生の勲四等瑞宝章受賞をお祝いする会がなごやかに開かれました。当日は昨夜来の雨もやみ、春を思わせるようなやわらかい日の光が輝き、先生をお祝ひする会にまったくふさわしい日よりでした。

会場は当初八十名の予定が百五十

名もとふくれ上がり、たいへんにぎやかな会になりました。先生は、ややクリューム色を帯びた白い絹のドレスを召され、胸の紅いルビーの瑞宝章がよく映えて、一段とふくふくしく見えました。一番初めのお祝辞は、東邦大学理事長の桑原章吾先生でした。桑原先生は、添田先生のゆかりの東邦大の現在の微生物学教室の教授であり、微生物学の先輩として先

ついで添田先生へ次々と記念品がおくられ、引き続き、先生が謝辞をのべられました。先生は、出席されたそれぞれ関係者に、丁寧に氣をくばられてのお礼を申されましたが、降壇後、再度壇上に上られ、ふるさとの福島県石川町の方々への謝辞を忘れたことを話されました。そのお姿は、本当に先生の人柄を現わし、その素朴な態度にみんな拍手喝采を致しました。

会は引続いて、添田賞の発表がありました。添田先生の方で発表なさると思ひますので割愛させていただきます。ついで先生が名誉町民一号に選ばれた、ふるさとの石川町の有賀博町

添田百枝先生おめでとうございます。永年のご研究の成果が国から認められ、今度の叙勲となられた事と存じまして、心からお慶びを申し上げます。

先生と私とのお付き合いは、先生が日本女医會の役員となられてからでございます。その前から研究者としての高名は承っておりまして、親しくご交際をいたさうになりました。このたびこのような栄誉ある叙勲をいただいた先生を出したことは、日本女医會にとっても名誉であるし、誇りでもあります。

先生は微生物という地味なご研究を遊ばしておられますが、単なる研究のための研究ではなく、その研究が臨床と結びついて、社会に直接影響し、患者を救う研究であることが特長と存じます。MS抗原として商業ベースにのり、私どもも使わせて頂いておりますが、この点いつも感服しております。

今、世の中では、男女平等、女性の地位向上が叫ばれていますが、私は女性の實力なくして地位の向上は望めないと思ひます。先生はこの点から申ししても、女性の持てる能力を十分に発揮され、万丈の氣焔をあげて下さいました。女性の地位向上への証をたてて下さったのです。

先生はこのたび添田百枝賞を設定されました。本当に頭の下がる思いです。それとただの賞ではなく、ご自分の研究された成果が生んだ果実を賞として使用されるという、実にすばらしい構想の下に生まれた賞であります。

心から拍手を送りたいと存じます。先生は古稀とは言えまだ研究の現役であり、お見受けしても、とてもそんなには見えません。何卒の上とも健康に注意され、立派なご研究を遊ばされてください。今日の感激を拙ない三十一文字にまとめてみましたので、お笑い草としておきき頂きたいと存じます。

名のごとく百代までもと枝のばす君の栄誉は光りいや増すご静聴ありがとうございます。

カナダ帰りの踊る阿呆

高知支部 小出つる子

一九八四年夏は、暑さが何十年来の連日猛暑記録でした。日本は熱帯になったかと思うほど暑くて、何事も手につかないという感じでしたが、七月二十九日発、カナダでの国際女医学会への出席は避暑に往くつもりで猛暑の日本を脱出、八月八日まで爽やかなカナダを楽しみました。

カナダという国は、アメリカ大陸が発見されたずっと後の建国ですから、文明はあっても文化はない。つまりオールドインディアンの文化から一挙にヨーロッパの近代文明にとびこえた国ですから、雄大な開けた風景はみごとで、土地もゆったりとして、のびのびとしました。ホテルの室も広く、道幅も広く、空も大きい国ですが、バンクーバーで会議を終えて東へ飛び、モントリオール、ケベックとなると、英語圏から一挙に仏語圏へ行ったので、頭の中も英語から仏語へボタンを押しなおさないといけません。「ハウマツチ」から「セコンビアン」にかかります。税関を通らず、イギリスからフランスへ行ったようなものです。

たしかにバンクーバーは古い良い英国紳士の国らしく、人々はエチケツト正しいし、街も美しい。私は博物館、美術館が好きなので、観光はもっぱらそういったコースを選びました。

民族博物館では、インディアン各部族のトーテムポールが、実に保存状況良く集めてありました。鷲の部族が鰐の部族を占領すると鳥の型の下にワニをおさえてそそり立っています。征服も、占領もされなかった蛙の部族では、純粋に蛙だけが部族のシンボルとしてデフォルメされています。この部族は偉くて平和だったんだな、と私がそれに少しでもあざかりたいと蛙みたいに這ってみたら、三神先生が面白がってパツチリと写して下さいました。腕が良いせいか、カメラのせいかな、なかなかよく撮れていました。興味深かったことは、インディアンのマスクが多いのは当然ですが、広く東南アジアの面、すなわち日本の能や雅楽の面、韓国の民族舞踊の面、インドネシアのガルーダから、中国の獅子踊りの

マスク（横浜の日本女医学会総会の時
のショーで存知ですが）などが実に良い状態でディスプレイされて集まっているのに驚きました。

また他の日、ブリティッシュコロンビア大学の地質学博物館へ行きました。地下の岩盤の掘削状況が模型で出ていて地層の岩石層の探しかたがわかりました。テイヤノザウルスのほぼ完全な化石が組み立ててあり、（テイヤノは巨大、ザウルスはとかげの意）後下肢の長さだけでも私の背丈くらいあり見事なものでしたし、各種鉱石、貴石、宝石の展示が一つ一つずいぶん大きな塊のまま並べてあり驚きでした。三葉虫や海百合の化石も日本の方々にある化石展の数倍の大きさのものがあり、広い展示スペースと広いロビーに生徒がまばらにみえるほどゆったりとした広さで、ただ感じ入るのみでした。

東独が世界に誇る大化石、始祖鳥の完全な化石もすばらしいものですが、カナダのものはただすべて大きいもので、古生代にはカナダも温帯だったのかしらと思えました。一国のただ一カ所の大学構内の地質学部だけでも広々として、またその一部の展示館のみでもこんなに広いスペースをとっているのですから、広い国カナダを改めて認識した次第です。総会や、ナイアガラ、ロッキーマウンテンについては他の方がお書きになると思いますので、私はただカナダは広かった、大きかった、という印象のみ書きました。平瀬先生曰く、

「カナダは車のかわりが飛行機で、下駄のかわりが車と思えばいいですな」と。

九日成田着、十日帰宅、十一日にすぐ徳島へ出発して四国女医学会連合の総会を十二日にしてその夕方から「四国女医連」と印した提灯を押し立てて、約四十名の女医会員が、鳥追笠、手甲、裾端折り姿で、下駄をカスターネットのごとく鳴らしながら、約一キロの道を、踊り、歩き、練習し、また踊り、と汗だくの阿波踊りに、身体中の水分が出切るくらいに炎暑の盆踊りを完舞しました。各県支部長四名ももちろん踊りに加わり、その踊りの最年長は蓮井先生で、お元気で汗を流していらっしやいました。「私これで体力に自信がついたわよ」と窪先生。

その全員四国女医連の踊りたるや、たった二十分ほどおけいこしたのみで、①頭はうつむかないこと②四十人の団体として美しく見えるのは個の手ぶり足さばきではないので前後左右の開きをメートル以上おいて列を正しく進むこと、③リズムにのること。という三つの指令だけでしたのに、何とか入賞すればいい線です。徳島駅から眉山まで約一キロありましたが、通常に歩いたらとても遠いのに、踊っていたらアツ！というくらい近く感じたのは不思議です。入賞すればいいというのは、入賞の旗を審査場で渡そうとしてくれる

のに、間隔を正しく保ち、リズムをくずさないためにはそんな旗なんてもらってはいられないと逃げまわって、ただ行列を正しくするだけに皆夢中でした。踊らない会員たちは第二審査場の上のほうから見えていらして、「ひいき目でもなくて、正しく列が入って来て揃っていたので美しかった。」と口々に言われ、団体の心が一つになると外見的にいいのだなあと一つ悟ったのでした。

古句に「月に投げ影に捨てたる踊りの手」というのがありますが、阿波踊りは月に投げ上げたまま指先をしなやかに動かすことに神経を集めていましたが、肩コリもなく、やはり健康四国の意気大いに投げ上げた阿呆たちで、各自、頼もしいわね、と言いつつ四国女医学会を終えました。



阿波踊りに参加する四国の女医会員

昭和58年度
日本女医会会員学位取得者一覧表
(学術部) 59, 9, 22

支 部	氏 名	出 身 校	卒 年	論 文 名
宮 城	古賀 詔子	東 女 医	昭・44	分娩体位が児の第一啼泣発現時間および臍帯血ガス分析値に及ぼす影響
宮 城	劉 雪 美	東 北 大	昭・48	超音波断層法による胎児発育度に関する研究 1.超音波計測による胎児発育の評価についての研究 2.超音波計測による見出生体重の予知に関する研究
群 馬	大和田なみ子	東 女 医	昭・50	胎児発育度スクリーニング法としての子宮底長の評価法
板 橋	野中千鶴	帝 京 大	昭・55	乳仔期ラット下垂体の in vitro における ゴナドトロピン自然放出の日齢差および性差
江 戸 川	荒井 純子	東 女 医	昭・50	腎疾患におけるアミノ酸およびケト酸代謝に関する研究
新 宿	前田美穂	日 本 医 大	昭・53	2種のラット transferrin 異性体の精製と性質
杉 並	成瀬 清子	東 女 医	昭・51	Immunohistochemical localization of renin in luteinizing hormone-producing cells of rat pituitary (ラット下垂体の黄体形成ホルモン産生細胞中にレニンが存在することの免疫組織化学的決定)
世 田 谷	宮坂 京子	医 科 歯 科 大	昭・49	The effect of pancreatectomy on cholinergic stimulation and the distribution of amylase activity in the rat.
文 京	加藤真砂子	東 女 医	昭・50	Vasopressin 投与による呼吸窮迫症候群動物モデル実験 ～形態学的見地を中心として～
港	竹田真知子	東 女 医	昭・52	メニエール病患者の瞳孔反応
目 黒	二宮 恵子	日 本 医 大	昭・54	ラット肝臓灌流における肝臓の insulin 代謝について
都 下	種村 睦子	東 女 医	昭・44	各種近文系マウス Mycobacterium avium に対する感受性 1) 腹腔内感染例について 2) 皮下感染例について
愛 知	小石多紀子	東 女 医	昭・48	Chromosomal radiosensitivity in meiotic oocytes of Chinese hamsters.
愛 知	並川 玲子	名 古 屋 大	昭・54	Serological analysis of cell surface antigens of HL-60 cells before and after treatment with phorbol ester tumor promoter. (前骨髄性白血病細胞株 HL-60 の腫瘍プロモータによる分化とその表面抗原の検索)
愛 知	平岩 紀子	名 古 屋 衛 大	昭・53	実験的白内障における眼組織の過酸化脂質と活性酸素の代謝に関する研究
愛 知	松岡 道子	名 古 屋 大	昭・40	Ataxia-telangiectasia を伴う免疫不全症の長期予後 第1編 2剖検例の臨床経過, 免疫能, 病理所見の比較検討 第2編 T cell malignancy を発症した1男児例 第3編 免疫異常の進行性について
愛 知	松本 昭子	名 古 屋 大	昭・48	Long-term prognosis of convulsive disorders in the first year of life: Mental and physical development and seizure persistence. 1 歳未満発症のけいれん性疾患の長期予後 ——精神運動発達および発作の予後について——
長 野	中西 文子	信 州 大	昭・31	膵の functional imaging 画像処理法と臨床的評価
奈 良	辻 光 子	大 阪 市 大	昭・50	培養軟骨細胞における cyclic AMP level と基質合成に及ぼす MSA (Multiplication stimulating activity) の影響
大 阪 6	堀 あいこ	関 西 医	昭・54	聴覚誘発眼輪筋反射に関する電気生理学的検討
大 阪 9	橋本智恵子	関 西 医	昭・34	「てんかん」におけるメコリル試験
兵 庫	芦田 千尋	神 戸 大	昭・54	Combination therapy of radiation and immunomodulators in the treatment of MM46 tumor transplanted in C3H/He mice.
兵 庫	斧 寿美子	神 戸 大	昭・40	慢性期脳血管障害患者のリハビリテーション訓練と血清脂質変動, とくにHDL-コレステロール動態からみた考察
兵 庫	田中 尚子	兵 庫 医	昭・54	小児各種腎疾患における Circulating immune complex と補体について ——IgA 腎症, Henoch-Schönlein 紫斑病性腎炎を中心に——
佐 賀	伊藤 直美	長 崎 大	昭・49	わが国全土における Legionella の分布調査 および検出菌の病原性に関する研究
熊 本	福本 郁子	東 女 医	昭・23	食習慣と寿命に関する prospective population survey ——九州の一漁村における15年間の追跡調査成績——
大 分	水谷 良子	東 女 医	昭・50	トロンボポエチンの巨核球コロニー形成に与える影響について
沖 縄	外間登美子	岡 山 大	昭・47	血清アルブミンに対するサルチル酸の親和性に関する研究

全国医科大学74校に調査依頼し52校より回答あり。結果 155名の学位取得者中
21名の女医会員があり, 会員外の 134名に入会のお誘いをし, 7名の入会あり。

Past Presidents' Advisory

Committee (元会長による顧問委員会)

Chair :

Dr. Trinidad A. Gomez

Equitable Village

Cherry Blossom Street

Las Pinas Metro Manila

Philippines

***個人会員**

今総会において、イラン5、アンゴラ1、トルコ1、コロンビア1の8名が個人会員として承認された。なお事務局は、アフリカ、アルゼンチン、バルバドス、ベルギー、中国、インドネシア、スペイン等との接触を維持している。

***MWIA財政について**

バンクーバー会議において各国女医协会会员1人当たり年会費が6スイスフランに値上げされた。個人会員の年会費は従来通り10スイスフランである。例年通り年初に各国女医会は年会費を支払うものとする。経理状況については会議報告書に掲載する。

また、総会において次の新基金設立を承認した。

(1)Dr.Holmström Fund (ホルムストローム基金) : この基金はMWIA会議を主催する女医会の準備金として前貸しローンとして利用ができる (日本のDr.小野春生氏がCHF1,100を寄付)。

(2)Dr.Leone Hellstedt Fund (レオネ・ヘルステッド基金) : はMWIAの将来事業のための事業ファンドとしてスタートさせることを国際役員会で決定。この基金に対してご協力をお願いする。

***基金委員会**

Dr.Arellano と Dr.Choo の尽力と多くの会員の協力により持ちこたったプレゼント売り上げ金はMWIAの収入として会議終了後基金委員会から会計に渡された。収入総額は、US\$ 1,564と5,540カナダドルである。

***事業委員会**

MWIAの出版事業によって得た収入、US\$ 38,222.97 はMWIAの将来事業のために使用する目的を有する特別基金とする。Dr.Leone Hollstedt Fund (レオネ・ホルステッド基金) とすることが総会で承認された。

***母子保健委員会**

ナイジェリアにおけるMWIAのプライマリーヘルスケア (PHC) 事業について視察および検討のためイバデンを訪れたDr.HussleinはナイジェリアにおけるPHC事業を継続することを決定し、村落民がもっとも緊急を要す

る薬品、予防ワクチンにつき検討することになった。

運営、交通等に問題があるため技術的助言はWHOに要請する (以下略)。

***Young Forum 委員会**

オーストラリア提出の修正案が総会で容認され、ヤング・フォーラム政策は次の通り決議された。

(1)ヤング・フォーラムはMWIAの永久的事業とする。

(2)会議のワーク・ショップに参加する各国女医会を代表する若い医師1人宛MWIAは参加費および宿泊費の割引を認める。

(3)ワーク・ショップはすべての女医、とくに若い医師にとって重要な事柄について討議するとともにMWIAへの参加を促進する。

(4)MWIAは、同等の職業的キャリア (履歴) に対して平等な機会が与えられない事実と直面している多くの国の若い女医の状況を改善する方法を求め。

以上の決議の実施に当たり、とくに4項について各国各位の協力を要請する。

総会は、さらに右記の決議が効力を発するため可能なアプローチとして次の決議を承認した。すなわち、ヤング・フォーラムは若い女医が四週間にわたって仲間を訪問することができるようにするExchange Friendship Programme (友情交換計画) を作り、MWIA委員の参加を要請する。訪問する女医が相手の家族と一緒に生活できること、および医療活動の視察が可能であることが望まれる。

このプログラム参加に関心のあるすべての会員 (招待側と訪問側) は、ヤング・フォーラム委員会の顧問 Dr. Ute Otten (前記参照) に連絡ありたい。ご協力を感謝する。

***第20回MWIA会議 (イタリー・ソレント)**

日時: 1987年4月26日から5月2日まで。

テーマ: 青年期—医学、心理、社会面

サブテーマ:

(1)青年期の定義と限界

(2)異なる文化の中の青年期

①歴史的概略 ②工業社会

③農業社会 ④都市化

(3)青年期の生理

①Auxology ②内分泌状況

(Endocrine Situation) ③男女思春期におけるホルモンの役割をどう測定するか (how to determine the hormonal role in

the male and female puberty)

④性別 (Sexuality)

(4)青年期の心理学

①心理的発達 ②アイデンティフィケーションのメカニズム

③個性化の過程

(5)青年期の病理

①遺伝的疾患 ②形態学的相伝

③一般的ホルモン異常 ④性的相伝

⑤器官の病理 ⑥精神病理

(6)青年期と社会

①家族 ②学校 ③グループ

④ファッション ⑤マス・メディア

⑥孤立と排斥 (isolation and exclusion) ⑦逸脱 (deviation)

⑧薬物 (含む麻薬)

⑨暴行 ⑩犯罪行為 ⑪法律

(7)予防と回復

①衛生教育 ②栄養 ③スポーツ

④疾病による休養期間 (Medical intervention) ⑤教育上の休止期間 (Pedagogic inter-

vention)

***演題募集**

抄録締切りは1986年5月31日。全文締切りは1986年9月30日。いずれも連絡書記を通して期日までにイタリー女医会担当者に必着のこと。

国際会議運営サービスが窓口である。

Mr. Balduccini

Sorrento Congress International
P.O.Box117

1-80067 Sorrento (Na), Italy

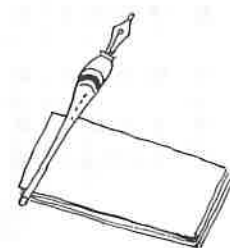
登録費未定

第21回MWIA会議は総会において選挙により韓国のソウル市で開催されることに決定した。テーマは、「国別婦人癌の発生率—寄与因子、早期発見および治療」である。詳細未定。

***国際関係行事**

1984年10月29日から11月2日までギリシャのアテネで開かれるCIOIMS (国際医科学協会) にMWIA代表としてDr.Motzelを派遣することを決定した。

前名誉書記 Mrs. Ruth Bonner 1958-1964 (スイス) をジュネーブ国連へのMWIA永久代表として、Dr.Shindlerとともに認めることに決定した。



Circular Letter No.77

国際連絡書記 山崎 倫子

設立60周年記念、第19回 MWIA 会議がカナダ女医学会主催のもとに1984年7月29日から8月4日までバンクーバーで開催され、600人以上の参加者があった。カナダ女医学会組織委員会に深い感謝をおくるとともに、カナダ女医学会員の温かい友情もてなしがこの会議を忘れられないものにしたことを述べたい。

***新役員 (任期1984~1987)**

President (会長) :

Dr. Beverley L. Tamboline
3050 West 27th Avenue
Vancouver, B.C.
Canada V6L 1W5

Immediate Past President (前会長) :

Dr. Trinidad A. Gomez
Equitable Village
Cherry Blossom Street
Las Pinas Metro Manila
Philippines

President-Elect (次期会長) :

Dr. Fernanda de Benedetti-
Venturini Via Fratelli
Ferrari 32/5 I-16031 Genova-
Bogliasco Italy

Honorary Treasurer (名誉会計) :

Dr. Anna Bogg-Berggren
Krukmakargatan 34 S-11651
Stockholm Sweden

Honorary Secretary (名誉書記) :

Dr. Carolyn Motzel
c/o MWIA Secretariat
Haedenkampstrasse 1
D-5000 Koeln 41
West-Germany

Vice-Presidents (副会長) :

Northern Europe (北ヨーロッパ) :

Dr. Monica McWeeney
Irish Medical Organization
10 Fitz William Place
Dublin Ireland

Central Europe (中央ヨーロッパ) :

Dr. Gertrud Zickgrat
Matthias-Claudius-Strasse 5
D-6200 Wiesbaden
West-Germany

Southern Europe (南ヨーロッパ) :

Professeur Yvonne Pérol
Hôpital St. Louis
Rue Bichat F-75010
Paris France

North America (北アメリカ) :

Dr. Patricia Tudbury
844 High Point Drive
Claremont, California 91711
U. S. A.

Ibero-America (ラ米(中部)) :

Dr. Pilar G. Reyes
Sargento Segundo Jorge
Ruiz Reyes No 18
Mexico, D.F. 21 Mexico

Near East & Africa (中東

およびアフリカ) :

Dr. Dinah E. Jarrett
P.O. Box 1188 Freetown
Sierra Leone

Central Asia (中央アジア) :

Dr. Mana Boonkhanphol
St. Louis Hospital
215 South Sathorn Road
Bangkok 12 Thailand

Western Pacific (西大平洋) :

Dr. Il-OK Choo
29-2 Chebu Dong
Chongro.ku
Seoul Korea

***委員会 (任期1984~1987)**

Finance Committee (財務委員会)

Chair (委員長) :
Dr. Lila Stein Kroser
2855 Welsh Road Philadelphia,
PA 19152 U.S.A.

Fund Raising Committee (募金委員会)

Co-Chair (副委員長) :
Dr. Remedios G. Arellano
65 Maranaw Street
Quezon City
Metro Manila Philippines

Co-Chair (副委員長) :

Dr. Il-OK Choo
29-2 Chebu-Dong
Chongro-ku Seoul Korea

Public Realitions & Publicity

Committee (応戦・宣伝、

委員会)

Chair. (委員長) :
Dr. Dorothy M. B. Ward
3, Montgomery Drive
Giffnock
Glasgow G46 6PY
United Kingdom

Project Committee (事業委員会)

Co-Chair :
Dr. Babill Stray-Pedersen
Vallegt 16a Oslo 1
Norway

Co-Chair :
Professor Olu S. Oduntan
Dept. of Preventive and
Social University of Ibadan
Ibadan Nigeria

Topic Committee (トピック

委員会)
Chair :
Dr. Vibeke Jørgensen
Hegnsvvej 37
DK-2850 Naerum Denmark

Health of Mother & Child Commi-

tee (母子保健委員会)
Chair :
Dr. Adelina Husslein
Paul-Ehrlich-Gasse 10
A-1190 Vienna Austria

Statutes and By-Laws Commi-

tee (定款・細則委員会)
Chair :
Dr. Beryl D. Corner
Flat 4, Chartley
The Avenue Sneyd Park
United Kingdom

Resolutions Committee (決議

委員会)
Chair :
Dr. Catrin Williams
Gwrych House Abergele
Clwyd LL22 8EU
United Kingdom

Young Forum Committee (ヤング

フォーラム委員会)
Co-Chair :
Dr. Shelley Nan Ross
7555 Morley Drive
Burnaby, B.C. Canada V5E 3Y2

Co-Chair :
Dr. Karen Anderson
245 Fourth Street, Suite 405
Bremerton, Wash. 98310
U. S. A.

Adviser (顧問) :
Dr. Ute Otten
Claudiusweg 10
D-5600 Wuppertal 1
West-Germany

渉外の三年

渉外部 柳瀬 路子

私ども(佐野、鈴木、高木、町田、柳瀬に、後から山本先生が加わられて六人)が渉外を担当いたしました。三年の任期が過ぎました。

国際渉外を佐野が、国内を柳瀬が主に受け持つてまいりましたが、任期中にはバンクーバーの国際大会もあり、また昨年東京で開催されたE.S.C.A.P.の会議には、NGOのメンバーである国際女医学会の代表として

外国から来客のある時、渉外部が中心となりまして歓迎会をいたしましたが、とりとめのない話題で貴重な時間が労費されるのがいつも心に掛っておりましたところ、二年ほど前、渋谷の国連大学でアメリカから来られた女性学者の要請により、「日本女医の現状、十年前の歴史、十年後の展望」というテーマの話し合いを渉外部で行なえたことは、非常に有益でありました。

また、チェニジアの首相夫人および厚生大臣の二女性大臣が日本の婦人四十八団体と懇談会を持った際、宿舎に厚生大臣をお尋ねして、チェニジアの医療、および女医の活動についてお聞きできたのも大きな収穫でした。外国から女医さんがみえた時も、これからはいつもテーマを持って意見の交換を図るよう、努力したいと思えます。

の医学校に進学された時、日本女医会から学資金の援助をしてあげられたらと思いました。

このことは、予算も伴うことですので、会員の皆様にお計りして決めねばならないことですが、日本女医会の渉外も今後は期に応じ、足元の小さいことから、何か実行して

行くべきであろうと思っております。

最後に、三年間の任期を無事終えられたのも、ひとえに会員皆様のご協力のお蔭と、渉外部一同、心より感謝いたしております。

第三十回定時総会のお知らせ

(詳細は前号に掲載)

日時 昭和六十年五月二十六日(日)午後一時
場所 京王プラザホテル

①一六〇 東京都新宿区西新宿二二二一
②〇三三四四一〇一一(代表)

常任理事会議事録

日時 昭和59年12月22日
場所 かに道楽(赤坂店)
出席者(敬称略)
三神、小俣、福永、山崎、久保田、佐藤、白橋、野沢、橋本、平瀬、丸山、森川、八木、柳瀬。

欠席者(敬称略) 稲葉、佐野。

常任理事会開始冒頭、日中医学協会への寄付金について、再度検討。
庶務報告 久保田常任理事

11月17日 理事会開催
12月6日 婦人の年金問題について七政党との意見交換会に柳瀬常任理事出席。

12月7日 特約販売銀座ムネトモより真珠ネックレスパンフレット発送。

12月8日 藤田たき叙勲記念祝賀会に三神会長出席。

12月10日 国際人権規約完全実施の申し入れに柳瀬常任理事出席。

12月15日 石本茂環境庁長官の就任祝いに柳瀬常任理事、佐野常任理事出席。

12月18日 広報部会開催。
その他

(1)厚生大臣 増岡博之氏、厚生政務次官 高橋辰夫氏の就任挨拶状あり。

理事会議事録

日時 昭和60年1月26日
場所 京王プラザホテル 42階
出席者(敬称略) 御岳
三神、小俣、福永、山崎、稲葉、

野沢 良美



第十九回国際女医会(カナダ)

愛知支部 山本美代子

オリンピックに縁なき衆生となりはててバンクーバーの昼下りを歩む

サーモンパーティーにて

シエラレオネの教授御夫妻ケニア女医サーモンパーティーの宵深みゆく

三日月明りエジプト人は忌むといふカイロの女医は明かなりし

頭飾りデコレーションハットの黒人女医等手振り腰ふり明るくおどる

海見える丘おりてきてアンジェラスの山脈淡く霜かかる見ゆ

コロンビア水河

雪上車のスノータイヤの重々しききしみに伝わる太古の静寂

砂の下深き氷の層ありて音もなく流る水河の静寂

大陸横断の旅へ

フレザール川の河口そめて陽は昇るなほ五時バンクーバー空港を離る

眠れる美女とインディアン讃えし山脈に今朝の陽のさし昇りゆく

ユトリロ画く街並にしてケベックは古風なるフランスの面影のこす

城壁にかこまれし町ケベックの敗戦記念碑の前に佇む

久保田、佐藤、白橋、野沢、橋本、平瀬、丸山、森川、八木、柳瀬、明石、荒木、石川、石原、井上、鶴川、川口、川島、鈴木、関口、野呂、蓮井、藤井、藤田、町田、三好、山本、添田、西山、山口、欠席者(敬称略) 佐野、マッキンストリ、森。

庶務報告 久保田常任理事

12月22日・第39回国連総会報告 会に役員有志出席。

常任理事会開催

1月7日・市川房枝記念会主催、各界婦人新年懇談会へ山崎副会長、柳瀬常任理事出席。

1月18日・広報部会開催。

石本茂環境庁長官との懇談会に山崎副会長出席。

会計報告 鶴川理事

12月分別紙どり報告 承認

議事

一、昭和61年総会開催地について

宮城支部へ開催依頼をしたところ、支部役員が、替ったばかりなので、二年後ごろに開催を考えているとのことであった。

二、昭和60年総会について

東京都支部連合会および大阪へ開催依頼をする。

とき 昭和60年5月26日

ところ 京王プラザホテル

評議員会 午前10時

総会 午後1時

懇親会 午後5時30分

現役員任期満了に伴う役員選挙の告示および総会のお知らせを1月

発行の会誌に掲載する。

三、昭和60年度事業計画案および予算案について

各部より事業計画案にそって予算額の要望を受く。

渉外部より

渉外費 七〇万円

広報部より

機関紙 二五〇万円

事業部より

へき地診療への助成 六〇万円

公衆衛生 三〇万円

支部助成 五〇万円

荻野吟子賞 一〇万円

女医の実態調査費 一五〇万円

円

(荻野吟子賞および日本女医の実態調査費は、科目新設)

学術部より

講演研修費 一〇〇万円

研究助成費 四〇万円

(学術研究助成者六名決定、そのうち一名分は一般会計、五名分は特別会計より支出)

庶務部より

事業費

会議費 八〇万円

旅費交通費 一七〇万円

管理費

俸給諸給諸手当 一〇九〇万円

会議費 一八〇万円

什器備品費 一〇〇万円

(他の科目は、ほぼ例年と同



額である)

以上の提出要望額について検討し、今後修正する。

四、その他

(1)へき地診療への助成について

東京女子医科大学無医地区研究会(栃木県那須町)へ四〇万円助成する。

(2)JIMS A(日本国際医学交流連盟)への助成について

五万円助成する。

(3)ワープロ購入について

機種および保守契約等について購入を検討する。

(4)日中医学協会への寄付について

前回理事会において決定しているが、審議する。

(5)学術研究助成授与について

応募一八件につき審査委員会で

選考の結果、六件に決定する。

イ 清水夏絵(東京大・昭41年卒)

ヒト眼筋固有知覚情報の異常

眼球運動に及ぼす影響の研究

口 高山澄子(東女医・昭53年卒)

インスリン受容体機能に関する研究(インスリン受容体リ酸化とインスリン作用の相関について)

ハ 原田景子(東女医・昭49年卒)

網膜可溶性抗原の特性について(第三報)アルゴンレーザ光凝固術の網膜可溶性抗原抗体への影響

ニ 安田佳織(久留米大・昭54年卒)

血友病患者の血清中に含まれる細胞膜調節因子の同定

ホ 後藤節子(名古屋大・昭44年)

絨毛癌細胞におけるHLAの存在性及びその特異性の検索へ 近藤 郁子(徳島大・昭42年卒)

網膜芽細胞腫遺伝子に密に連鎖したLCP1遺伝子の構造と遺伝的多型の分析

(6)留学生への補助について 当会の事業として今後補助することを総会で了承を得ることとする。

以上 久保田くら

野沢 良美



常任理事会議事録

日時 昭和60年2月23日
場所 日本女医学会会堂

出席者(敬称略)

三神、小俣、福永、山崎、稲葉、久保田、佐藤、佐野、白橋、野沢、橋本、八木。

欠席者(敬称略)

平瀬、丸山、森川、柳瀬

庶務報告 久保田常任理事

1月26日 学術研究助成審査会および理事会開催

2月9日 日中医学協会募金委員会へ三神会長、丸山常任理事出席

2月14日 日本女医学会誌一〇一号年金パンフレットおよび会費請求書発送。

その他 (1)学術研究助成授与者、原田景子より礼状あり。

連絡事項 (1)東京都生活文化局婦人青少年部長および国際婦人年連絡会より「国連婦人の十年世界会議NNGOフォーラム」に関する情報について

開催地 ナイロビ(ナイロビ大学)

期間 昭和60年7月9日〜17日(NGO会議)

日 昭和60年7月15日〜26日(政府間会議)

(2)昭和59年度婦選会館講座について

講師 齊藤恵彦(東京外国語大学 学教授)

会場 婦選会館

日時 昭和60年3月8日

世界人権宣言と人権関係条約 国連における人権問題の取り組みと日本の役割

会員動静

会計報告

1月分別紙どおり報告 佐藤常任理事

以上 久保田くら 承認 野沢 良美

入会会員(敬称略)

栃木支部 清水夏繪(東京大)

茨城支部 近藤郁子(徳島大)

大田支部 山田花子(東女医)

杉並支部 関 幸恵(東女医)

杉並支部 的場愛子(北里大)

神奈川支部 奥田恭子(東邦医)

若山喜久子(名古屋大)

静岡支部 阿曾須巴子(東邦医)

小林典子(東女医)

愛知支部 鈴木留美(名古屋大)

京都支部 石田博子(金沢大)

兵庫支部 中西幸子(東女医)

尾崎孝子(関西医)

新卒入会会員(敬称略)

北海道支部 細谷静恵(札幌医)

埼玉支部 八木くみ(帝京大)

近藤 恵(東女医)

陣内みどり(独協医)

北支部 矢後千尋(帝京大)

渋谷支部 沢口聡子(聖マリアンナ医)

新宿支部 江口和子(東女医)

愛知支部 神原陽子(名古屋衛大)

福岡支部 片山真理子(東女医)

集記



桜花吹雪で散り、憂うつな長雨が続き、やっと久しぶりに晴の日です。最近、アメリカとの経済摩擦について、騒がしい昨今である。

私たちが広報部(八木、川口、井上、森、平瀬)の五人はやっと最後の編集会議を四月十二日本部で行なった。復刊百号を記念して、名誉会員である大村ひさ美先生を訪問し、大変喜ばれた思い出、昭和五十九年、国際女医学会議(カナダ)へは日本より七十七名参加し、堀口 文先生は「変貌する日本の社会における男と女」、野沢良美先生は「産科異常における季節性」について発表された。

カナダではバンクーバー、モントリオール、ケベック、ナイヤガラ瀑布、カナディアンロッキー等の旅が思い出される。

一九八七年四月のイタリー・ソレ

五月二十六日は第三十回定時総会で選挙が行なわれますので、多数の方々のご出席を待望しています。(平瀬)

昭和60年4月20日 印刷
昭和60年4月25日 発行
編集人 八木 貞子
発行人 日本女医学会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-17 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
TEL(498)〇五七一
制作 東京都文京区水道1-5-16 株式会社 金剛出版